

# 密着 田んぼアートができるまで

**5** 苗を運び、田植えイベントの準備をします。



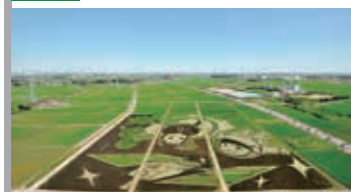
**6** 813人で、田んぼアートを描いていきます。



**7** 6月下旬になると稲が成長し、図柄が見えてきました。



**8** 7月中旬になると、色合いがはつきりしてきます。



**9** 季節の移り変わりでさまざまな表情を見せます。



**1** 県の種苗センターで種をまき、苗を育てます。



**2** 田に水を入れて土を砕いてかきならします。



**3** 測量機器を使って図柄を形成するためのくいを打ちます。



**4** くいとくいをひもで結びます。



**4** くいとくいをひもで結びます。



害虫などに強い7品種の稲を選定したり、圃場に雑草が生えないように高低差を解消したりと準備を進めました。今年の図柄は「未来へつなぐ古の軌跡」がテーマ。6月13日・14日には田植え作業が行われ、ボランティアや一般参加者総勢813人が約2・8ヘクタールの巨大なキャンバスに古代蓮、地球、子供たち、宇宙、小惑星探査機はやぶさ2を悲願達成への願いを込めて描きました。



## 祝 ギネス世界記録®認定 世界一への軌跡

ついに、行田の田んぼアートが世界最大のものとしてギネス世界記録に認定されました。これを祝い、今月の特集は「田んぼアート」にスポットを当て、ギネス世界記録達成までの軌跡を紹介するとともに、この事業に携わった方の喜びの声をお届けします。

「今年こそ認定を」と今年度は高温や24年度には「面積1万5千平方メートル以上、2種類以上の稲を使うこと、背景の割合が40パーセント以下であること」と審査基準が示されました。しかし、この年の作品の背景の割合が基準に達しなかったことから挑戦を断念。初めてギネス世界記録の認定審査を受けた25年度は、高温障害により一部の稲に生育不足が見られ、地面が見えてしまったことから「アートとしては未完成」という理由で認定を受けることができませんでした。さらに不運は続き、26年度は大雨の影響で雑草が生い茂り、稲にも生育不足が見られたため申請自体を見送ることに。

世界最大の田んぼアートの認定を目指すようになったのは、平成23年度。当時、ギネス世界記録として田んぼアートの審査基準がなかったことから、ギネスワールドレコーズ社にカテゴリーの作成を依頼するところからスタートしました。

### 平成23年度から田植え体験に参加している村田さんファミリーにインタビュー



左から村田陽一さん、海斗くん(6歳)、蒼良くん(11歳)、美由紀さん(門井町)

今年の図柄は、これまでのものと違って雰囲気かわいらしく親しみやすいと思います。ギネス世界記録に認定されたことにより、さらなるまちのアピールにつながったのではないのでしょうか。

長男が小学1年生のときに、同級生に誘ってもらったことがきっかけでした。今では家族全員「マイ足袋」を持っています。子供たちは泥んこになって、田植えを楽しんでいました。田植えから稲刈りまで行うこの事業は、日本人の主食である米がどのようにできるかを実際に体験して理解を深めることができます。子供ももちろん、大人にとってもとても良いことだと思います。

### 田植えボランティアに参加した地元県立進修館高等学校の生徒にインタビュー



右：宮島慎二郎さん(普通科3年・持田)  
左：江戸悠菜さん(総合学科2年・和田)

宮島さん：ギネス世界記録認定に向けて力になりたいと思います。1年生のときから山岳部の仲間と参加しています。これまで田植え経験がなかった分、稲を植える作業は新鮮でとても楽しかったです。今回のギネス世界記録の達成を学校の先生から聞いたのですが、そのときは本当にうれしく感じました。今後ボランティアとして参加したいです。

江戸さん：昨年初めて参加したときに、みんなの力を合わせて素晴らしいものを作り上げることが達成感を感じました。今年も参加したのは、「もう一度協力していいものを作りたい」という思いがあったからです。ギネス世界記録の認定は、行田の誇りですね。まだ、実際に古代蓮会館の展望室から実物を見ていないので、これからじっくり観賞したいと思います。